

落花らっか（鱸すずき 松塘しょうとう）

開落かいらくを 将もつて 東皇とうこうに 間とうこと 莫なかれ

限かぎり 有ある 繁華はんか 夕陽せきよう なり易やすし

水みずに 臨のぞんで 尋たずね 難がたし 当とう日じつの 影かげ

欄らんに 倚よつて 猶なお 唱とのう 満庭まんてい芳ほう

三春さんしゅんの 綺夢きむ 風前ふうぜんに 遠とおく

十里じゅうりの 珠簾しゆれん 雨裏うりに 涼すずし

縦たとい 紅顔こうがんをして 空谷くうこくに 棄すてしむるも

寧なんぞ 柳絮りゅうじよを 追おうて 顛狂てんきやうを 学まなばんや

莫將開落問東皇 有限繁華易夕陽

臨水難尋當日影 倚欄猶唱滿庭芳

三春綺夢風前遠 十里珠簾雨裏涼

縱使紅顔空谷棄 寧追柳絮學顛狂

解説 落花に寄せて人生は落花のように執着なく、拘こたわらず生きたいものだと言った詩。

語釈 ※落花 落ちる桜の花。 ※莫 〳としてはならない。 ※将 〳によつて。 ※開落 花の開いたり散つたりすること。 ※問東皇 春の神に花の開落を憐ただしくするかを問う。 ※繁華 草木が繁り花咲くこと。 ※易夕陽 夕日になりやすいこと。 ※臨水 水面を見下ろす。 ※難尋 かつて華やかに水面に映じていた花を探しあてるに困難であること。 ※当日影 水に映つた花のあざやかな印象。 ※倚欄 欄干によりかかつて。 ※猶 いつまでも。 ※唱滿庭芳 滿庭芳の詞をうたう。 ※三春 一年を四季に分けたうちの、春三か月。 ※綺夢 美しい夢。 ※風前遠 春の美しい夢も、風の前に散つて遠のく。 ※十里 雨が十里にわたつて降っていることをいう。 ※珠簾 玉飾りのついた簾すだれ。 ※雨裏涼 雨中の光景がさびしい。 ※縱使 「たといくするとも」の意。 ※紅顔 美人の顔。 ※空谷 人気のない谷。 ※寧 「どうして〳しようか、いやせぬ」の意。 ※柳絮 柳のわた。 ※顛狂 柳絮が乱れ飛ぶさまをいう。

通釈 開いたと思えばすぐ散らす訳を、春の神に問うことはない。華やかな花も限りがあつて、朝日を受けて咲き、夕べには散つてしまふ。水辺で散つてしまふ事もあれば、盛時の面影は見つからない。欄干に寄りかかり、欄漫の時を想い起こして、滿庭芳の曲をうたう。春も過ぎて、美しい夢も風の前に散つてしまひ、遠い処に行つてしまふ。珠簾を巻けば、十里の間、雨中の光景が侘わびしい。たとえ紅顔のような美しい花が人気のない淋しい谷に捨て去られても、どうして柳のわたに追隨して未練がましく乱れ飛ぶ様なまねをするのだろうか。